

第37回 廃炉・汚染水対策現地調整会議 議事概要

1. 日程

日時：平成29年1月17日（火）10：00－12：00

場所：ホテルハマツ「右近の間」

2. メンバー

政府：

- ・高木原子力災害現地対策本部長（経済産業副大臣）
- ・後藤原子力災害現地対策副本部長
- ・復興庁：白井次長
- ・環境省：渡邊水環境課長
- ・国土交通省：堂蘭河川環境調整官
- ・水産庁：竹葉増殖推進部研究指導課長
- ・文科省：相浦係員（代理出席）
- ・廃炉・汚染水対策チーム：田中特別対策監
尾澤事務局長補佐、秦対策官
柿崎企画官、湯本事務局総括
- ・廃炉・汚染水対策現地事務所：生越所長、木野参事官、本田調整官
- ・原子力損害賠償・廃炉等支援機構：永井審議役

事業者：

- ・東京電力：石崎福島復興本社代表、増田プレジデント
有馬バイスプレジデント、石川廃炉推進Cプロジェクト統括管理センター長

オブザーバー：

- ・福島県：五十嵐政策監

規制当局：

- ・原子力規制庁：山形審議官、持丸調整官

3. 結果概要

■高木副大臣からの冒頭挨拶

◇あけましておめでとうございます。本日も御多忙の中、お集まりいただき感謝いたします。

◇昨年は、陸側遮水壁の海側の凍結完了、35m盤のフェーシングの完了、K排水路や新設排水路の付け替え、雑固体廃棄物焼却設備の稼働、1号機原子炉建屋カバーの解体、海底土被覆工事の完了など、様々な対策を着実に実現してきました。本年も、各号機格納容器内のロボット調査、陸側遮水壁の山側の閉合、4m盤の雨水対策など、各対策を着実に進め、更なる前進を図りたいと思います。

◇陸側遮水壁につきましては、建屋周辺の水位が急激に下がらないように未凍結としていた山側の7箇所のうち2箇所について、昨年12月より凍結を開始しました。4m盤の汲み上げ量についても、陸側遮水壁（海側）の効果により抑制効果が見え始めており、それらの詳細について報告を受けたいと思います。

◇また、フランジ型タンクにつきましては、鋭意リプレースを進めていますが、当分の間一部は使用継続となるため、漏えい防止などの保全対策について報告を受け、御意見を頂きたいと思います。

◇その他に、12月に発生しましたヒューマンエラーによる重要な安全確保設備の停止の再発防止対策の進捗について報告を受けたいと思います。

◇本日も活発な御意見、徹底した御議論をお願いいたします。

■主な指摘事項

資料 1－3

- 双葉線 66 kV 引留鉄構の応急措置は評価できる。保全計画の水平展開の取組は非常に重要であり、保守管理に抜けがないかしっかりと見極めてほしい。保守管理の横串を担う保全管理グループが新設されており、しっかり機能させることが重要。

資料 1－5

- 12月7日のトラブル事象も踏まえ、原子力規制庁として行政指導を出した。特に重要と考えているのは廃止措置を持続的に進めていく上で冷却機能をしっかり維持すること。ハードのみならず作業員の教育などソフトウェアの対策もしっかりと行ってほしい。

[参考] 4 m 盤の汲み上げ量抑制効果

- 凍土壁の効果について分かりやすい資料でありがたい。県議会でも聞かれており県民の関心が高い。こういった形で、効果や今後の見通しについての情報提供を今後もお願いしたい。
- この資料は非常に見やすい。汲み上げ量は減少しており凍土壁の効果は出てきている。一方、山側は未だ開いている状況なので、梅雨時前までには閉合をお願いしたい。

資料 2A

- 廃棄物関連設備について、固体廃棄物貯蔵庫第9棟の建設が若干遅れているとのことだが、今回その他の施設についても事前了解がなされた。これらの対象施設については計画通りに整備を進めて頂きたい。

資料 2B

- 凍土壁 4 m 盤の効果の話にも繋がるが、10 m 盤のフェーシング対策、建屋の雨水対策といったものを進めることで、4 m 盤への流入も減少すると思う。しっかりと対策していただきたい。
- K 排水路の清掃等を行って頂いたことには感謝。ただ、魚介類は未だ高い放射線濃度のものが検出されることがある。こうした魚介類が港湾外に出ないように、引き続き港湾内の管理と排水路の清掃等をお願いしたい。
- 先週 1 F 視察を行った。以前に比べてタービン建屋の山側はがれきが少なくなり非常に綺麗に整備された印象を受けたが、海側や、タービン建屋の間の箇所については未だ整備が進んでいないように感じた。海側のサブドレン整備に向けて、長期的な意味でも周辺の整備はしっかり行って頂きたい。

4. 次回以降の日程

次回の開催時期については、決定次第事務方より連絡